

持続可能な農業の普及を目指して

ウガンダと国内で農業や化学肥料に依存しない持続可能な農業を実践。



株式会社クリスタル

代表取締役 **木下正義**

(きのした・まさよし) 中国大連外国語大学留学後、勝原コーヒーに入社。2006年7月に㈱クリスタルを設立。世界各国の輸入コーヒー生産者家族と豆の製造販売を行っている。

自然栽培へのこだわり

世界各国のコーヒー豆をはじめ農産物の加工・販売などを行っている当社が扱う食品は、全て農薬も化学肥料も使わない自然栽培によるもの。なぜ自然栽培にこだわるのか。

1997年、まだ私たちが直営の喫茶店を営んでいたころのこと。化学過敏症に悩まされ、農薬や肥料を使用した農産物が食べられないというお客様が来店。「農薬や化学肥料を使用していないコーヒーが飲みたい」。いつまでもその言葉が頭から離れない。化学過敏症の方にも安心して飲んでいただけるコーヒーを提供したい！

コーヒー豆を自然栽培する生産地を検討した結果、ウガンダ共和国が最適地であることが分かった。1997年、ウガンダへ飛び、現地の生産者組合との間で、そこで暮らす人々の手



生産者家族の皆さんと

によって大切に育てられている上質のコーヒーを、日本国内で独占販売する契約を結ぶことができた。

ウガンダの社会課題に目を向けるきっかけになったのは、一人の少女とその家族との出会いだった。当時のウガンダは、20年余りにわたる内戦により、無政府状態で一切の経済活動は停止。虐殺や人身売買は日常茶飯事、難民は160万人に達していた。コーヒー農園の近くで、ボロボロの服を着た幼い少女と目が合った。3人の兄弟と一緒に何かを訴えている。私は思わず「これで服を買って」。1万円相当のお金を現地通貨で手渡ししてしまった。その晩、私たちが滞在するホテルにその少女と両親が訪ねてきた。「娘を買ってくれてありがとう」「家族みんなが1年は生活できる」「どうぞ、この子を日本へ連れて帰ってください」。私たちは驚くとともに涙した。そして、ウガンダの経済発展に貢献したい！との思いを強くした。

取り組み事例を紹介したい。

現地の生活支援

フェアトレードの収益を活用し、医療のない地域で人々の命をつなぐための診療所を契約農園に設置。ミシン作業の訓練施設をつくり、元少年兵の社会復帰を手助けしているほか、NPO法人と連携しスラム街にある小学校に教